

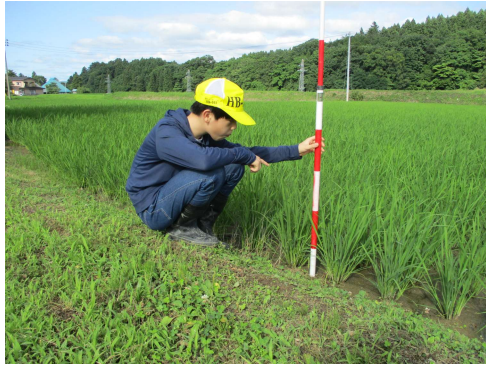
5月7～8日に田植えを行い、その後の天候も順調に推移したことから今年の冬の降雪量が少なかったことから心配された水不足も今のところなく、稲の生育も比較的良好に生育しています。

田植え後25日を過ぎたところから、圃場の稲の生育状況を見ながら、中干しと溝切り（江立て）を行うのですが、分けつ状況が少し少なかったことから、当農園では6月14日から中干しと溝切りを開始し16日に終了しました。例年行っている定点観測箇所の稲も1株20～25本程に分けつし稲丈も35～40cm程に生育しました。

定点観測箇所の稲

溝切り（江立て）作業

溝切り（江立て）終了



耕耘の前と田植えの後とに草刈り機で除草しましたが、その後畦道や水路の周りの雑草も、天候が順調に推移していることもあり旺盛に生長し早くも3回目除草作業に取りかかっています。これまでも自走式除草機が2台あり活躍してきましたが、今年新たに新型のスパイダーモーターとウイングモーターを購入しました。畦の傾斜や広さによって使い分けして使用することとしたいのですが、2人の孫も手伝ってくれても1台余ってしまいます???・・・今年もこれから暑い日がつづくと思います。秋の収穫期まで雑草との戦いがつづきますが体力も年齢と共に落ちてきたことから、新しい機械に頼ることとしています。

新旧の自走式除草機を前にして

平坦地はウイングモーターで刈り取り



当農園の玄米保冷库12℃で管理中



今年も庭のトチノキに多くの花が着きました、秋が楽しみです。

新潟でも梅雨に入り蒸し暑い日がつづいています。この時期に入ると心配されるのがお米の品質管理です。当農園では4月以降の発送に当たっては、大型の保冷库2台に入れ管理してきた玄米をご注文を頂き発送する直前に精米をし発送していますが、時々米の中で虫が発生したがお米は食べられるか???等の質問をいただきます。発生した虫はコクゾウムシかノシメダラメイガの幼虫だと思います。いずれも炊飯前に取り除けば食べられますが、気持ちが悪いので出来れば発生しないように管理したいものです。家庭用の「保冷米びつ」があれば最適ですが、ない場合には冷蔵庫の野菜棚等で保管していただければとおもっています。新型コロナウイルスの感染対策における、様々の規制も大幅に解除され、首都圏を含め県をまたぐ移動も出来るようになりましたが、第2波第3波が心配されます・・・

メグスリノキってどんな木？？？・・・

メグスリノキは、東北地方（山形、宮城県）から九州までの山中に自生している、カエデ科の落葉高木で、我が国特産の樹木です。
したがって、漢名はなく和名でメグスリノキ（目薬の木）と称されており、地方名俗名としては長者の木、千里眼の木、三つ葉楓等ともよばれています。学名はAcer nikoense Maxim です。

和名の語源は、昔から山村では「外傷性の眼の傷」や「ものもらい」ができた場合にこの木の枝や樹皮を煎じた液で洗眼したり、初老になると起こる「かすみ眼」や「眼の疲労」等にはこの液を飲んで治していたことから、誰言うことなくこの木のことを「目薬の木」とよぶようになりました。このようなことから和名もそのまま「**メグスリノキ（目薬の木）**」と命名されたといわれています。

「眼の疲労」等に飲用して効果があったのは、中国の古典「素問」「靈樞」に「肝気は目に通ず、肝和すれば、目よく五色を弁ず」とあるように、この木に含まれる成分に肝臓を活性化させる成分があり、目にも効果があったものと思われます。

春の緑葉



緑葉

秋の紅葉



紅葉

種子



この木は妙高山麓～笹ヶ峰にかけも自生し秋には鮮やかな紅葉が見られます。この木から生産した、お茶、煎餅、飴、うどん、ドリンク剤等を販売していますので、ご利用ください。

弊社は、製品の均一性を高めるため原材料のメグスリノキは全て自家山林等に植林した木を使い、天然のメグスリノキは使用していません。

今年のニンニク生育状況（黒ニンニクの元）



目薬の木の種子



4月から地元妙高市の朝市に出店



今年も、小規模ですがニンニク栽培に挑戦しています。妙高産の黒ニンニクを楽しみにしててください。新型コロナの関係でこれまでのイベントが全て中止になったことから、地元の朝市に出店を始めました。